

『一人でも多くの方を救いたい』

はら り さ こ

枚方消防署 警備課 本署 救急担当 消防士長 原 理紗子(25)

《業務内容》

「出動指令を受け、救急現場に駆け付ける」、「傷病者の容態の観察や情報収集を実施する」「冷静に判断して適切な処置を行う」、「迅速に医療機関に搬送する」、それが救急担当の主な業務です。救急現場は、急病人やケガ人、交通事故のように様々な傷病者がおり、一つとして同じ現場はありません。「119番通報し、救急車を呼ぶ」ということは、傷病者本人や家族にとっては一大事で、大きな不安や焦りがあると思います。接する方一人ひとりに寄り添い、その不安や焦りを少しでも和らげることも大切な役割です。

また、救急車の車内はとても揺れやすく、急ブレーキや急ハンドルは傷病者の方の負担にもなるため、サイレンを鳴らして走行する際は、細心の注意を払い、その特性を考慮した運転をするように心掛けています。傷病者の負担を少しでも軽減し、安心感を与えることができる活動を行うために、日頃から災害現場を想定した訓練を重ね、救急現場に備えています。



《仕事に対するやりがい》

「救急隊員として人の生命に関わり、一人でも多くの方を救いたい。」

高校生の時にそう思い、消防士を目指しました。高校を卒業後、本消防組合に採用され、消防隊で勤務した後、憧れだった救急隊員として現在働いています。消防の仕事は「男社会」という印象が強く、傷病者や家族の方と接する際は驚かれることが多いです。確かに、消防の仕事は男性が多く、体格面で劣る部分もありますが、私にしかできない役割もあります。

緊迫した状況下においても、女性だから受け入れて貰えるということを活かし、思いやり

を持って寄り添い、接することが私の役割であり、一番大切にしているところです。傷病者や家族の方から「あなたがいてくれたから安心した、ありがとう。」という言葉を見たときにこの仕事をやってよかったなと感じます。いろんな職業がありますが、接した人から直接「ありがとう」と言ってもらえる職業は少ないです。辛いことや大変なこともあります。私はこの救急隊員という仕事に誇りを持っています。

